

shindaiwa[®]

取扱説明書

携帯用発電機

EGR2600
EGR2600-S
EGR2400

空冷4サイクル・OHCガソリンエンジン



注意

安全のため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、いつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。

はじめに

このたびは、新ダイワの携帯用発電機をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

- この取扱説明書は、本機を安全に正しく使用していただくために作成しています。本機の取扱いを誤りますと事故や故障の原因となりますので、ご使用前には必ずこの取扱説明書をお読みください。
- 本機の取扱いは、この取扱説明書の内容を理解し、安全な取扱いができる人が行ってください。また、安全作業上で影響が出るような病気・薬服用・体調不良のときは、本機の使用を控えてください。
- 本機を使用した作業や本機の取扱いにおいては、関連する法律（労働安全衛生法、電気事業法、電気工事士法、消防法、騒音規制法等）およびその法律に基づく規則を遵守してください。
- 本機を貸し出すときは、必ず取扱説明書を添付し、よく読んでから使用するよう指導してください。
- この取扱説明書は、いつでもご覧いただけるよう、所定の場所に大切に保管してください。紛失・汚損・破損したときは、お求めの販売店にご注文ください。
- ご不明な点、お気づきの点がありましたら、お求めの販売店にご相談ください。また、本機についてのお問合せ時は、モデル名と製造番号をお知らせください。
- 本機を廃棄されるときは、産業廃棄物として関連法規に基づいた処理を行ってください。処理にお困りのときは、お求めの販売店にご相談ください。

■この取扱説明書では、注意事項のランクを下記のように区分しています。

- ◆ **危険**：取り扱いを誤ると、死亡または重傷を負う可能性がある場合。
- ▲ **注意**：取り扱いを誤ると、中程度の傷害や軽傷を負う可能性がある場合および物的損害が発生する可能性がある場合。
- < **注意** >：本機の保護と、本機の性能を十分に発揮させるための注意事項。

- 『▲ **注意**』に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

目 次

1. 安全上の注意	2
2. 仕様	4
3. 用途	4
4. 各部の名称	5
5. 装備	6
6. 運転方法	7
6-1. 始業前点検	7
6-2. 始動	8
6-3. 停止	9
7. 発電機の操作	10
7-1. 操作	10
7-2. 使用できる機器の容量	10
8. 点検・整備	11
9. 長期保管	14
10. 故障時の対応	15

1. 安全上の注意

⚠ 危険：排気ガス中毒

- エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれていますので、室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないでください。

⚠ 危険：感電

- 運転中、本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。
- 出力コンセントや発電機の開口部に、ピンや針金などの金属物を入れないでください。
- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

⚠ 注意：排気ガス中毒

- 排気を通行人や民家などに向けしないでください。

⚠ 注意：感電

- 本機に水をかけたり、雨中での使用はしないでください。
- 運転中は、スパークプラグ・プラグキャップ・高圧線には触れないでください。

⚠ 注意：火災

- 本機は、燃料としてガソリンを使用しています。燃料の点検や給油・抜き取り、燃料ストレーナーの清掃など、燃料を扱うときは必ずエンジンを停止し、絶対に火気を近づけないでください。また、エンジンが冷えてから行ってください。
- 燃料をこぼしたときは、必ずふき取ってください。
また、燃料もれがある場合は、絶対に使用せず、必ず修理してください。
- マフラーや排気ガスなどは高温となるため、引火性のある物（燃料・ガス・塗料など）や燃えやすい物は、本機に近づけないでください。
- 本機は壁などの障害物から1 m以上離し、水平な場所で運転してください。
- 保管用カバーなどをかけるときは、本機が冷えてから行ってください。
- 屋内配線に接続しないでください。（法令でも禁止されています）

⚠ 注意：やけど

- 運転中や停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、触れないでください。
- エンジンオイルの点検・交換を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。運転中にオイルゲージを開けると、高温のオイルが吹き出します。

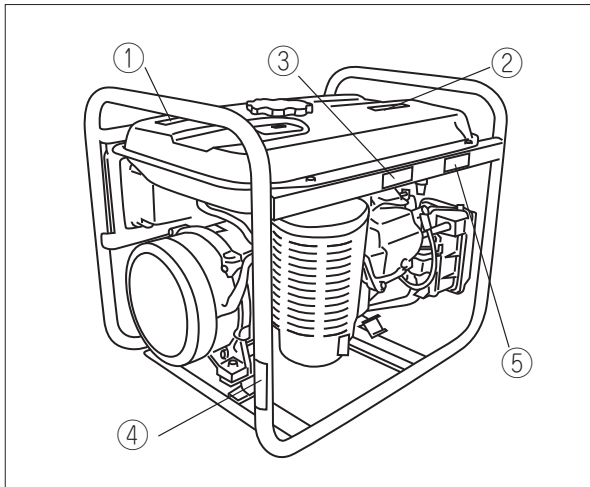
⚠ 注意：けが

- 本機をトラックなどで運搬するときは、ロープなどでしっかり固定し、本機が動かないようにしてください。
- 本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置してください。
- エンジンを始動するときは、必ず使用機器のスイッチを切り、ブレーカーを『OFF』にしてください。
- 回転部に棒・針金・ひもなどを入れないでください。
- 回転部に巻き込まれる恐れがありますので、長い髪は束ね、スカーフやアクセサリー類のぶらつく物は身に付けないでください。
- 運転中に移動しないでください。
- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。
- 改造したり、部品をはずしたままで運転しないでください。

■警告ラベル貼付位置

警告ラベルが見えにくくなったり破損したときは、新しいラベルを指定場所に貼りかえてください。ラベルの注文は（ ）内の番号で注文してください。

- ① 排気ガス中毒 (品番X505-005150)
- ② 感電 (品番X505-005140)
- ③ やけど (品番X505-005160)
- ④ やけど (品番X505-005180)
- ⑤ 高電圧 (品番X505-005171)



2. 仕様

モデル		EGR2600				EGR2400	
		-A	-SA	-B	-SB	-A	-B
発電機	発電方式	回転界磁型同期発電方式					
	励磁方式	自己励磁式					
	電圧調整方式	AVR方式					
	周波数 (Hz)	50		60		50	60
	相	単相					
	定格出力 (kVA)	2.2		2.6		2.0	2.4
	定格電圧 (V)	100					
	定格電流 (A)	22		26		20	24
	定格回転数 (min ⁻¹)	3000		3600		3000	3600
	力率	1.0					
	定格	連続					
	過電流保護	ノーヒューズブレーカー					
	エンジン	名称	ロビン EX17D				ロビン EX17DM
型式		空冷4サイクル傾斜形 OHC 式ガソリンエンジン					
連続定格出力 (kW/min ⁻¹) {PS/rpm}		2.6/3000 {3.5/3000}		2.9/3600 {4.0/3600}		2.6/3000 {3.5/3000}	2.9/3600 {4.0/3600}
排気量 (ml)		169					
燃料の種類		自動車用レギュラーガソリン					
潤滑油容量 (L)		0.6					
始動方式		リコイルスターター式					
装備	オイルセンサー	有					
	スローダウン	無	有	無	有	無	
燃料タンク規定容量 (L)		8.3					
連続定格運転時間 (h)		5.7		5.0		6.8	5.4
外形寸法 L × W × H(mm)		540 × 412 × 465				575 × 412 × 465	
乾燥質量 (kg)		43	44	43	44	41	
装備質量 (kg)		50	51	50	51	48	

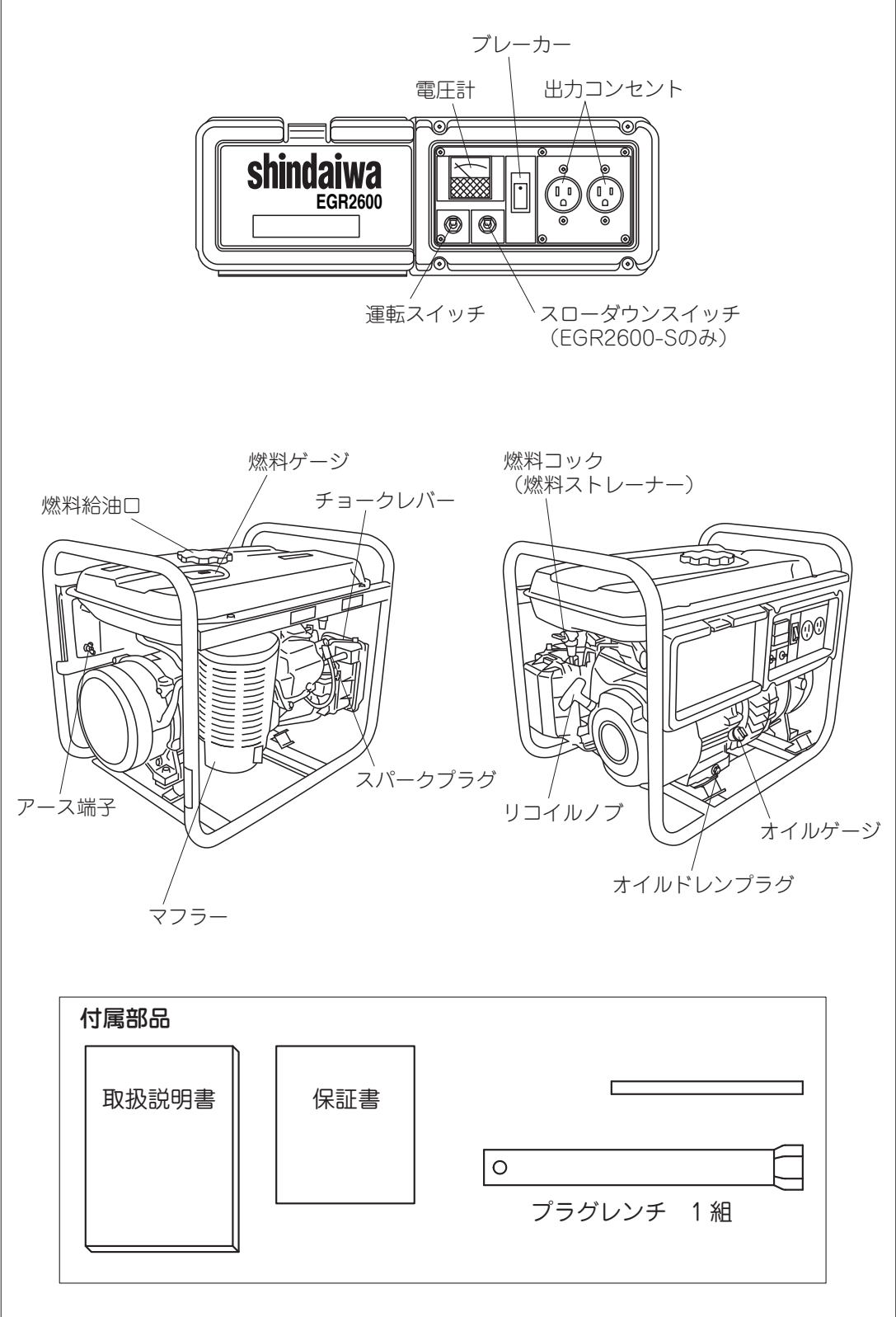
3. 用途

- 電動工具の電源
- 照明機器の電源
- 家電機器の電源

⚠ 注意：物的損害

- 上記の用途以外には使用しないでください。
コンピューター・マイコン搭載機器・精密機器の電源として使用しないでください。使用機器が故障することがあります。

4. 各部の名称



5. 装備

(1) オイルセンサー

注意：やけど

- エンジンオイルの点検・交換を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。運転中にオイルゲージを開けると、高温のオイルが吹き出します。

オイルセンサーは、エンジンオイルが少なくなると自動的にエンジンを停止させ、エンジンの焼き付きを防止する装置です。

エンジンが自動停止したときは、『エンジンオイルの点検 (P7)』の項を参照してエンジンオイルの量を点検し、エンジンオイルを上限レベルまで給油してください。

<注意>

- オイルセンサーは、オイルの劣化を検知することはできません。エンジンオイルは、『エンジンオイルの交換 (P12)』の項を参照して定期的に交換してください。
- 本機が傾斜していると、オイルセンサーが作動し、エンジンが停止することがあります。水平な場所で運転してください。

(2) ブレーカー

注意：けが

- ブレーカー作動後、再度『ON』にするときは、必ず使用機器のスイッチを切ってください。

電流を取りすぎると、ブレーカーが作動し『OFF』になります。

運転中に使用機器が停止した場合は、ブレーカーを点検してください。

ブレーカーが『OFF』になっているときは、つぎの操作をしてください。

① 使用機器のスイッチをすべて切ります。

② ブレーカーを『ON』にします。

<注意>

- 『使用できる機器の容量 (P10)』の項を参照し、電流を取りすぎないように注意して使用してください。

(3) スローダウン (EGR2600-Sのみ)

スローダウンは、騒音防止と燃料節約を目的として、機器を使用していないときにエンジンを自動的に (約10秒後に) 低速回転にする装置です。

スローダウンを使用するときは、スローダウンスイッチを『ON』にしてください。

機器の使用を開始すると、エンジンは自動的に高速回転になります。

<注意>

- 20W以下の機器を使用するときは、スローダウンが作動せず、エンジンが高速回転にならないことがありますので、スローダウンスイッチを『OFF』にしてください。

(4) アース端子

本機をアース (接地) する端子です。

使用機器をアースしたときは、本機も必ずアースしてください。

6. 運転方法

6-1. 始業前点検

⚠ 注意：火災・やけど・けが

- 点検時は必ずエンジンを停止し、絶対に火気を近づけないでください。また、エンジンが冷えてから行ってください。

(1) エンジンオイルの点検

オイル量の点検は、本機を水平にし、オイルゲージを給油口に差し込んだ状態で（ねじ込まないで）確認してください。

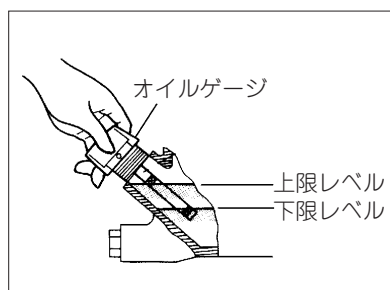
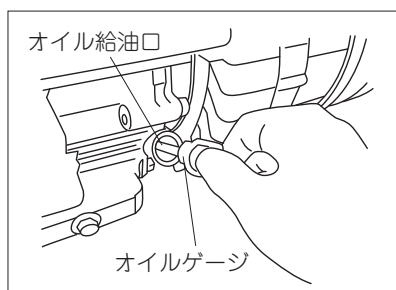
始業前に、オイルを上限レベルまで給油しておいてください。

オイル容量：約0.6L（全量）

オイル有効量：約0.35L（下限レベルから上限レベルまで）

<注意>

- 本機が傾いた状態では、オイル量を正確に確認することができません。
- オイル量が下限レベル付近で使用すると、本機の傾きによってはオイルセンサーが作動せず、エンジンが焼き付くことがあります。



■エンジンオイルの選定

オイルは外気温に応じて適正な粘度（表を参照）のガソリンエンジン用オイルを使用してください。

<注意>

- オイルの品質は、SE級以上のものを使用してください。
- マルチグレードを使用した場合、外気温が高いとオイルの消費量が増えますので、オイルの残量に注意してください。

オイル粘度の選定基準

外気温度	-10	0	10	20	30	40	℃
シングルグレード		10W	20W	#20	#30	#40	
マルチグレード		10W-30					

(2) 燃料の点検

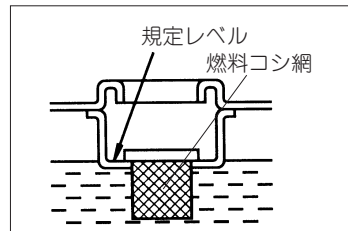
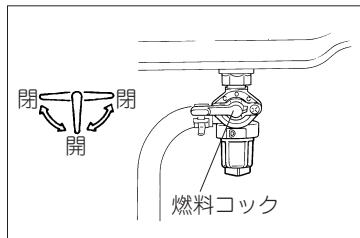
⚠ 注意：火災

- 燃料をこぼしたときは、必ずふき取ってください。

燃料が規定レベル内に十分入っているか点検し、不足しているときは給油してください。

<注意>

- 2ヶ月以上使用しなかった燃料は、新しい燃料に入れ換えてください。
- 燃料は自動車用レギュラーガソリンを使用してください。
- 給油時は燃料コックを閉じ、給油口に装着してある燃料コシ網を必ず使用してください。
- 燃料は規定レベル以上給油しないでください。(規定容量：約8.3L)



(3) 燃料・オイルもれの点検

⚠ 注意：火災

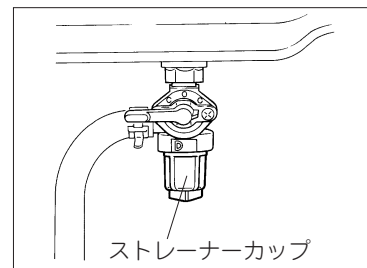
- 燃料もれがある場合は、絶対に使用せず、必ず修理してください。

燃料配管接続部などからの燃料もれと、エンジンからのオイルもれがないか点検してください。

燃料もれの点検は燃料コックを開いて行い、点検後は必ず燃料コックを閉じてください。

<注意>

- ストレーナーカップがゆるんでいたら、増し締めしてください。



6-2. 始動

⚠ 危険：排気ガス中毒

- エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれていますので、室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないでください。

⚠ 注意：排気ガス中毒

- 排気を通行人や民家などに向けないでください。

⚠ 注意：火災

- マフラーや排気ガスなどは高温となるため、引火性のある物（燃料・ガス・塗料など）や燃えやすい物は、本機に近づけないでください。
- 本機は壁などの障害物から1 m以上離し、水平な場所に設置してください。

⚠ 注意：けが

- 本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置してください。
- 始動前に、必ず使用機器のスイッチを切り、ブレーカーを『OFF』にしてください。

- ① ブレーカーを『OFF』にします。
- ② 燃料コックを『開』にします。
- ③ 運転スイッチを『運転』にします。
- ④ (スローダウンがあるモデルのみ)
スローダウンスイッチを『OFF』にします。
- ⑤ チョークレバーを『全開』にします。
<注意>
 - エンジンの暖機状態や外気温度に合わせて、チョーク操作を加減してください。
- ⑥ リコイルノブを重くなるどころ(圧縮点)までゆっくり引き、一度元にもどして一気に引きます。
<注意>
 - リコイルノブは、いっぱい引ききらないでください。また、引いた位置から手放さずに、ゆっくりと戻してください。
- ⑦ エンジン始動後、チョークレバーを『全開』にします。
<注意>
 - 始動後、すぐにチョークレバーを『全開』にするとエンストすることがありますので、エンジンの調子にあわせて徐々に操作し、最後には必ず『全開』にしてください。
- ⑧ 約5分間、暖機運転をします。

6-3. 停止

- ① ブレーカーを『OFF』にします。
- ② (スローダウンがあるモデルのみ)
スローダウンスイッチを『ON』にします。
- ③ 約3分間冷機運転をします
- ④ 運転スイッチを『停止』にします。
<注意>
 - エンジンが止まらないときは、そのまま燃料コックを閉じてください。数分後に停止します。
その場合は、本機をそのまま使用せずに、お求めの販売店に修理を申し付けてください。
- ⑤ エンジン停止後、燃料コックを『閉』にします。

7. 発電機の操作

⚠ 危険：感電

- 本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。

⚠ 注意：けが

- 使用機器のスイッチが『OFF』になっているのを確認してから、出力コンセントに電源プラグを差し込んでください。

⚠ 注意：物的損害

- コンピューター・マイコン搭載機器・精密機器の電源として使用しないでください。使用機器が故障することがあります。

7-1. 操作

エンジン始動後、ブレーカーを『ON』にすれば、出力コンセントから100V交流電源が取り出せます。

<注意>

- 出力コンセント1個から取り出せる電流は、15Aまでです。
- 2個のコンセント合計で定格電流以内で使用してください。
定格電流 EGR2600-A, EGR2600-SA : 22A
EGR2600-B, EGR2600-SB : 26A
EGR2400-A : 20A
EGR2400-B : 24A
- 運転中は、ブレーカーが『OFF』でも電圧計は100Vを表示します。

7-2. 使用できる機器の容量

電動工具や家電機器は、その種類・性能によって使用できる容量が異なりますので、次の表を参考にしてください。

使用機器	容量の目安 (単位: W)			
	EGR2600		EGR2400	
	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz
白熱電球、電熱器など	2200	2600	2000	2400
蛍光灯、電動工具 (整流子モーター) など	1100	1300	1000	1200
水銀灯 (高力率型) (W×台数)	400×2	400×2	—	—
水中ポンプ (W×台数)	480×3	480×4	480×3	480×4
コンプレッサー (W×台数)	400×1	400×1	400×1	400×1

※容量の数値は、水中ポンプ・コンプレッサーは『出力』、その他の機器は『消費電力』で表示しています。

※水中ポンプは「コンデンサモータ」方式の場合です。

<注意>

- モーターを使用した機器は、機器の定格より大きい電力を必要とすることがありますので、お求めの販売店にご相談ください。
- 水銀灯・水中ポンプ・コンプレッサーなどの機器を2台以上使用するときは、機器を同時に起動させないで、1台ずつ起動させてください。
- 水銀灯を消灯した直後に再点灯するときは、約15分間待ってランプが冷えてから点灯してください。
- EGR2400で水銀灯は使用できません。使用した場合、激しいチラツキが発生する恐れがあります。EGR2600の場合でも、多少チラツキが発生することがあります。

8. 点検・整備

⚠ 危険：感電

- 必ずエンジンを停止して行ってください。

⚠ 注意：けが

- 必ずエンジンを停止して行ってください。

⚠ 注意：火災・やけど

- 絶対に火気を近づけないでください。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、エンジンが冷えてから行ってください。

本機を常に良好な状態で使用できるよう、次の表にしたがって定期的に点検・整備を行ってください。

<注意>

- 始業前点検以外は、専門技術者が行ってください。
- 表中の●印はお求めの販売店に申し付けてください。
- 交換部品は、必ず純正品を使用してください。
- オイル・燃料などの廃液を抜くときは、地面に垂れ流さないよう容器に受けてください。これら廃液やバッテリーなどの消耗部品を廃棄するときは、産業廃棄物として関連法規に基づいた処理を行ってください。処理にお困りのときは、お求めの販売店にご相談ください。

点検・整備項目	始業前点検 (毎日)	50時間 ごと	100時間 ごと	200時間 ごと	500時間 ごと	1000時間 ごと	12ヶ月 ごと
1 各部の清掃・締付点検	○						
2 エンジンオイルの点検・給油	○						
3 エンジンオイルの交換			○ (初回20時間)				
4 燃料ストレーナーの清掃				○			
5 燃料・オイル漏れの点検	○						
6 エアクリーナーの清掃		○					
7 スパークプラグの清掃			○				
8 スパークプラグの調整				○			
9 吸排気弁の点検・すり合わせ					●		
10 燃焼室内の清掃					●		
11 オーバーホール						●	
12 カーボンブラシの点検					●		
13 燃料パイプの交換							●
14 防振ゴムの交換							●

(1) エンジンオイルの交換

初 回	20時間目
2回目以降	100時間ごと

- ① オイルゲージをはずします。
- ② オイルドレンプラグをはずして、エンジンオイルを抜きます。
- ③ オイルドレンプラグを締め付けます。
- ④ エンジンオイルを上限レベルまで入れます。
(約0.6L入ります)

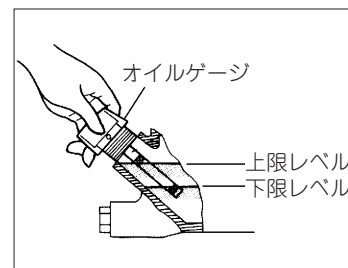
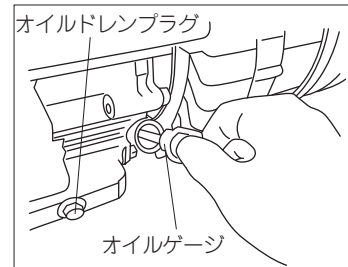
<注意>

- エンジンオイルの種類は、『6-1.始業前点検 (1) エンジンオイルの点検 (P7)』の項を参照してください。

- ⑤ オイルゲージを締め付けます。

<注意>

- オイル交換後、エンジンをしばらく運転して、ドレンプラグからオイルもれがないことを確認してください。



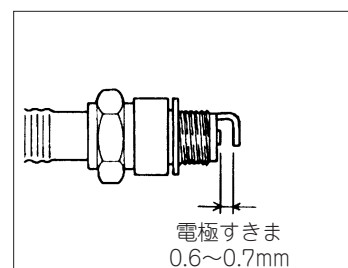
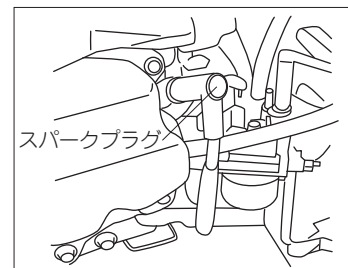
(2) スパークプラグの清掃と調整

清掃	100時間ごと
調整	200時間ごと

<注意>

- プラグは『NGK BPR6HS』を使用してください。

- ① プラグキャップを取り、プラグレンチでスパークプラグをはずします。
- ② スパークプラグが汚れているときは、プラグクリーナーかワイヤーブラシで汚れを落とします。
- ③ 電極すきまを0.6~0.7mmに調整します。



(3) エアクリーナーの清掃

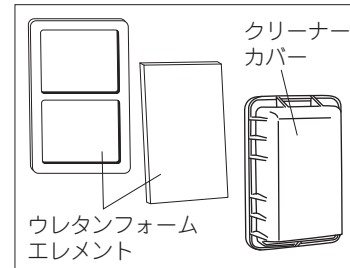
清掃	50時間ごと
----	--------

<注意>

- 汚れがひどくなると、出力低下や始動不良などを起こす原因となりますので、ホコリの多い場所で使用したときは早めに清掃してください。

① クリーナーカバーをはずします。

② ウレタンフォームエレメントを取り出し、洗油（白灯油）で洗浄後、白灯油3：エンジンオイル1の割合の混合油に浸し、固く絞って取り付けます。



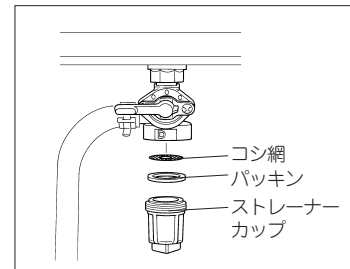
(4) 燃料ストレーナーの清掃

清掃	200時間ごと
----	---------

① 燃料コックを『閉』にし、ストレーナーカップを左に回してストレーナーカップをはずします。

② ストレーナーカップ内の水やゴミを捨て、コシ網に付着しているゴミを取り除きます。

③ 組込みは逆の手順で行いますが、燃料もれがないよう、パッキン部にゴミが付着していないことを確認してストレーナーカップをしっかりと取り付けます。



<注意>

- 取り付け後は、燃料コックを『開』にして燃料もれがないことを確認し、確認後は『閉』にしてください。

9. 長期保管

⚠ 危険：感電

- 整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

⚠ 注意：けが

- 整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

⚠ 注意：火災・やけど

- 火気を近づけないでください。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、エンジンが冷えてから整備を行ってください。

本機を1ヶ月以上使用しないときは、次の手順にしたがって整備を行ってから保管してください。（『8.点検・整備（P11～P13）』の項を参照）

- 1 燃料コックを『閉』にしてストレーナーカップをはずします。
- 2 燃料コックを『開』にして燃料タンク内の燃料を全部抜きます。
- 3 燃料コックを『閉』にします。
- 4 ストレーナーカップのパッキン部にゴミが付着していないことを確認します。
- 5 ストレーナーカップを取り付けます。
- 6 出力コンセントから機器の電源プラグを抜きます。
- 7 エンジンを始動させてエンジンが止まるまで運転します。（キャブレター内の燃料が空になります。）
- 8 運転スイッチを『停止』にします。
- 9 エンジンオイルを交換します。
- 10 スパークプラグをはずし、その穴からエンジンオイルを約5 mL注入します。
- 11 リコイルノブをゆっくり数回引きます。
- 12 スパークプラグを取り付けます。
- 13 リコイルノブを重くなるまでゆっくり引き、元にもどします。
- 14 エアクリーナーを清掃します。
- 15 各部を清掃し、湿気・ホコリの少ない場所にカバーなどをかけて保管します。

10. 故障時の対応

⚠ 危険：感電

- 本機や体がぬれているときは、運転しないでください。
- 必ずエンジンを停止して行ってください。

⚠ 注意：けが

- 必ずエンジンを停止して行ってください。

⚠ 注意：火災・やけど

- 絶対に火気を近づけないでください。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、エンジンが冷えてから行ってください。

本機の調子が悪いときは、次の表にしたがって点検してください。

点検しても正常にならないときは、お求めの販売店に修理を申し付けてください。

症 状	推定原因	処 置
エンジンが始動しない	1. 燃料コック『閉』 2. 燃料の不足 3. 燃料に水やゴミが混入	1. 燃料コックを『開』にする 2. 燃料を給油する 3. 燃料タンク・燃料ストレーナーの水抜きと清掃
エンジンがすぐ停止する	1. オイルセンサー作動	1. オイルを給油する
使用機器が作動しない	1. プレーカー『OFF』 2. 使用機器の電流が定格を超えている	1. プレーカーを『ON』にする 2. 『使用できる機器の容量』を参考にする
スローダウンが動作しない (スローダウンがあるモデルのみ)	1. 使用機器が20W以下	1. スローダウンスイッチを『OFF』にする

MEMO

株式会社やまびこ

〒198-8760 東京都青梅市末広町1-7-2 Tel 0428-32-6181

やまびこ産業機械株式会社

〒731-3167 広島市安佐南区大塚西6-2-11 Tel 082-849-2005 (代)

やまびこ北海道株式会社

〒004-0041 北海道札幌市厚別区大谷地東1-2-20 Tel 011-891-2249 (代)

やまびこ東北株式会社

〒984-0002 宮城県仙台市若林区卸町東5-1-50 Tel 022-288-0511 (代)

やまびこ東部株式会社

〒198-0025 東京都青梅市末広町1-7-2 Tel 0428-32-1091 (代)

やまびこ中部株式会社

〒452-0031 愛知県清須市西枇杷島町宮前1-39 Tel 052-502-4111 (代)

やまびこ西部株式会社

〒701-0221 岡山県岡山市南区藤田566-159 Tel 086-296-5911 (代)

やまびこ九州株式会社

〒816-0943 福岡県大野城市白木原5-3-7 Tel 092-573-5361 (代)

ご用命の際はご購入いただいた販売店へご連絡ください。

X750 805-350 0

© 2011 株式会社やまびこ 著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。